



里山が育み、
人がつなぐ、
日本一の梅づくり

南高梅

紀州石神田辺梅林(田辺市)



養分に乏しい斜面の梅林周辺に薪炭林を残すことで、水源涵養や崩落を防ぎ、薪炭林を活用した紀州備長炭の生産と、ミツバチを受粉に利用した梅栽培を行っています。



ニホンミツバチによる受粉



世界農業遺産認定による効果

梅・紀州備長炭の生産振興

梅と備長炭を中心とする生業の維持発展

- みなべ町・田辺市で生産される南高梅、紀州備長炭は日本の最高級(トップブランド)
- みなべ町・田辺市の農家の9割以上が梅を栽培し、梅干し等の二次加工業の企業が地域内に集積。製炭も山間部の産業として大きな地位。梅と備長炭に関わる人々の生業が地域全体に広がる。

- 梅栽培面積 : 4,060ha (H22) → 4,180ha (R2)
- 梅新品種普及面積: 81ha (H25) → 164ha (R2)
- 山管理技術講習会参加: 30人 (H25) → 87人 (R1)



将来を見据えた次世代への継承

伝統技術の継承と後継者育成

- 生産者の姿、ランドスケープ、生物多様性、伝統技法、伝統文化などを伝承していくため、学びの機会を広く提供

- 教育機関と連携した梅システムマイスターの養成 : 9人 (H29) → 累計43人 (R3)

みなべ・田辺地域を支える人材の確保と育成、多様な主体が参画する仕組みづくりと受入体制の充実

- 教育機関での食育学習会 : 48回 (H25) → 264回 (R3)



観光体験の充実

「みなべ田辺の梅システム」が支える本地域の魅力アップ

- 観梅・梅干工場見学・観光炭焼き体験・伝統行事など観光体験と地域への滞在。システムを説明できる場所・人材を充実

- 観光客数: 1,625,190人 (H25) → 1,676,709人 (R1)
- うめ・炭情報発信施設の来館者: 53,999人/年 (H25) → 61,895人/年 (R1)
- みなべ梅林入場者数: 24,649人 (H28) → 29,711人 (H30)
- 外国人延べ宿泊者数 : 38,754人 (H25) → 40,283人 (R1)



梅システムの国際的な貢献

世界的な重要性を発信するとともに新たな認定をめざす開発途上国を支援

- 世界農業遺産認定地域や諸外国との連携した情報共有、交流を進展させ本地域の賑わいに

- 海外研修生: 28人 (H28) → 累計89人 (H30)
- 受入国数 : 2カ国 (H28) → 累計12カ国 (H30)

- 「みなべ田辺の梅システム」の国内企業や諸外国への情報発信

- ロゴマークを活用する企業数: 18社 (H28) → 累計38社 (R3)
- イベント・プロモーション参加: 4件 (H27) → 10件 (R3)

